

平成 27 年 築地場外市場 震災訓練記録

日時： 平成 27 年 3 月 10 日（火） 15：00～16：00
場所： 「震災時ぷらっと対策本部&応急救護所」（ぷらっと築地）
参加人員： 50名
内容： （1）聖路加救命医による災害時の搬送アドバイス
（2）聖路加への搬送を想定した応急救護と搬送の訓練（京橋消防署指導）
（3）京橋消防署による講評

1）聖路加救命医による災害時の搬送アドバイス

震災時には、医師の手当が必要な重傷者は、区内の救急救命センターである聖路加国際病院に搬送することになる。しかし適切な搬送ができるか不安もあり、同病院の救命医師に指導をお願いした所、快諾いただき、訓練に参加いただいた。要点は以下の通りである。

①各々が自分の身を守る ②“歩ける人”が“歩けない人”を搬送する

医師によるトリアージの方法をご紹介いただくとともに、我々場外スタッフが、可能な限り手厚くケアすることの大切さを教えていただいた。

2）聖路加への搬送を想定した応急救護と搬送の訓練

＜救護所の設営＞組合理事長（災害対策本部長）が救護所リーダーを選任し、リーダーは集まったスタッフに、ブルーシートを敷き詰め毛布と救急セットを用意するよう指示した。

＜ケガ人の搬入・手当・搬出＞地元消防団員 5 名（①火傷の子供②出血多量③大腿骨骨折者④パニックの高齢者⑤心肺停止者）が各々ゼッケンを付けて待機。訓練開始と共に運び込まれる。応急手当後、その場にある資材を用いて病院へ搬送する。

＜総合案内所“ぷらっと築地”のスタッフによる来街者案内訓練＞

国内外の観光来街者が増加していることから、ぷらっとでは、独自プログラムによる災害時案内訓練を行った。



3) 京橋消防署による講評

***救護所は病院の病室をイメージするように。**休憩所の椅子をベッドに見立てて、その間を通路とする。椅子は三月だと冷たく感じるので、**毛布や段ボールをあらかじめ敷いておく**こと。

***救護所リーダーは中心**で動かず全体の指示を出す。**記録係を専任**し記録およびケガ人情報を掲示。それぞれの**ケガ人の搬送にもリーダーを指名**し、統率がとれるようにする。

- ① **火傷の子供**：**子供の名前、服の特徴をメモ**し、見つけた場所へ戻って親を捜す。（子供が自身の名を言えない場合は、ケイタイで写真を撮っておくなどの工夫を！）火傷の場合、患部の汚れを洗い流す→冷やす→病院へ抱えて運ぶ。
- ② **出血多量者**：未使用のビニール袋等を使い、**血液を触らずに出血箇所を直接圧迫**して、止血。包帯等で処置した後は、歩けない場合は担架を作り、複数で搬送する。
- ③ **大腿骨骨折者**：**患部だけでなく全身を固定すべき**。患者が大柄な場合は人員を増やして交代で搬送し、二次災害を防ぐ。
- ④ **パニックの高齢者**：**心を落ち着かせて話を聞き**、ケガや持病の有無を確かめる。**本人の望む体位**で救護し、**十分に保温**した上で搬送する。
- ⑤ **心肺停止者**：**呼びかけて返答がなく、普段通りの呼吸の有無を確認してない場合は、直ちに心臓マッサージ（胸骨圧迫）**、AEDも用いる。保温も忘れないように。

講評の後、聖路加の先生、理事長、町会長、各役割を演じた参加者、消防団員、区役所防災課、ぷらっとのスタッフに、順に感想を伺った。

その中で、心肺停止者を演じた川名消防団員が「僕は結果的には心肺停止してしまいましたが、最後まで手厚く手当てしてくれて、ありがたかったです」との感想を述べた。この言葉が、今回の訓練の目的を言い表していたように思う。

災害時には、場外で負傷したすべての傷者を、出来る限り手厚く手当てする。

そのために毎年訓練を重ねて手順を覚えることと、包帯法等具体的技術を習得することが、今後の目標である。

